

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

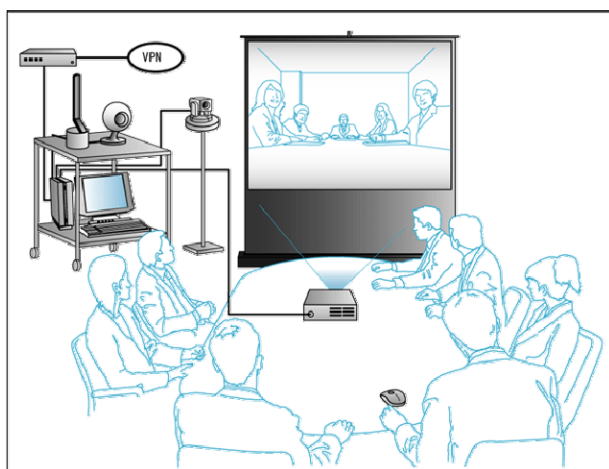
Vol. 9. No.14 2007年7月15日号

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

ニュース

日立コミュニケーションテクノロジー、専用サーバーなしで最大5地点まで接続可能な会議室向けビデオ会議システムを発売



Sympasite 構成例

株式会社日立コミュニケーションテクノロジー（東京都品川区）は、「ビジネスクラス VoIP ソリューションパッケージ VociP(ボクシップ)」のひとつである、IP ビジュアルコミュニケーションシステム NetCS series の新製品として、ビデオ会議システム NetCS series「Sympasite(シンパサイト)」を7月6日より発売した。VociPは、株式会社日立製作所が提供する「通信・情報システム融合ソリューション CommuniMax」に基づくソリューションパッケージ。

日立コミュニケーションテクノロジーは、IP テレフォニーサーバー「IPTOWER-SP シリーズ」との連携や NTT ドコモの3G携帯である「FOMA」に接続対応した、デスクトップ PC 向けのビデオ会議システム「NetCS series」を提供しているが、それに対して今回発表の Sympasite は、NetCS series の会議室向けビデオ会議システムという位置づけで提供する。

Sympasite は、拠点間の通信、映像などの制御を行うコントローラ、マイクアレイ、スピーカ、ネットワークカメラ、映像機

器（プロジェクタ、スクリーンまたはプラズマディスプレイ）により構成されている。「専用サーバーが不要で、プロジェクタ、スクリーンなどはすでに所有のものを活用でき、他のHD（ハイデフィニション）ビデオ会議システムと比較して、低価格を実現している。導入・運用コストの低さや設置や操作性の簡単さがビデオ会議を身近にすると考えている。これによって高画質、高音質のビデオ会議システムがより多くの企業に普及すると期待している。」（日立コミュニケーションテクノロジー）



会議選択画面（ディスプレイ上に表示される画面）



会議中画面（ディスプレイ上に表示される画面）

「設置や操作については、コントローラ、カメラ、マイクは

LAN 接続ができるので、会議室へのシステム設置はとて簡単だ。操作は画面を見ながら、接続先の会議室などをマウスでクリックするだけで相手にコールが出来る。簡単にすぐビデオ会議ができるのがこのシステムの良さのひとつである。」(日立コミュニケーションテクノロジー)

Sympasite は、高画質、高音質のビデオ会議を実現するために、画質においては、解像度100万画素クラスの高精細ネットワークカメラを採用している。「ひとりひとりの表情もはっきりとわかり、ホワイトボードの墨が鮮明に読み取れる。出席者全員がひとつの大きな会議室にいる感覚で、質の高いコミュニケーションが可能だ。」(日立コミュニケーションテクノロジー)



適応型エコーキャンセラ

(写真左：マイクアレイ)

音声については、16Khz の FM 放送レベルの音質を提供し、適応型エコーキャンセラ、卓上不要音除去機能などを搭載。適応型エコーキャンセラは、指向性制御によりスピーカからの音と話者からの音を分離し、人の動きやドアの開閉などによって変化する音響環境に応じて、エコーキャンセラを自動的に最適化する機能。

卓上不要音除去機能は、会議中にデスク上で資料をめくる音やパソコンのキーボードを叩く音など、会話の妨げとなる雑音を上下方向の指向性制御によってカットする。

「16Khz の高音質に加え、高性能のエコーキャンセラと不要音除去の機能を付加することで、会議室向けに必要な自然でスムーズな双方向会話をこの Sympasite で実現し

た。」(日立コミュニケーションテクノロジー)

Sympasite の発売に先立ち、日立コミュニケーションテクノロジーでは1年半にわたりプロトタイプでの導入を実施。自社内で、機能や操作性の改善、コスト削減、社内コミュニケーションの活性化の効果を検証したという。

Sympasite のシステム価格は税抜き 128 万円(コントローラ、マイクアレイ、ネットワークカメラ、スピーカを含む1拠点あたりの価格。周辺機器、SE 費、工事・保守費を含まない。) 出荷開始は、今年の9月20日から、3年間で3,000システムの販売を見込む。

アルカディン・ジャパン、自社開発の新 Web 会議サービス日本国内提供開始

電話会議サービス事業者であるアルカディン・ジャパン株式会社(東京都港区)は、新 Web 会議サービス「Arkadin Anywhere 1.5(アルカディン・エニウェア)」サービスの国内開始を7月2日付けで発表した。アルカディン・ジャパンは、フランスに本社を持つ電話会議サービス事業者の日本国内法人。全世界で350名の社員。アジア太平洋地域では、東京、北京、上海、香港、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドに拠点を持つ。フランス本社は2001年に事業を開始。日本法人は2005年に開設。

今回発表された Arkadin Anywhere 1.5 は、日本語対応となり初めて日本国内で提供開始になるもの。Microsoft WindowsOS、Apple Mac OS、Unix の主要 OS に対応しているため、ユーザは、基本的に OS のプラットフォームを気にせず Arkadin Anywhere を利用できる。「従来 DataNow という Web 会議サービスを提供してきていたが、機能を増やすよりは、機能を基本的なレベルまで絞り、パソコンの初級者でも簡単に操作ができるメニュー画面にすることで、Web 会議サービスをより使ってもらうことに繋がるのではないかと考えた。その結果、今回新たに自社内開発で Web 会議システムを提供することにした。今後もユーザニーズを積極的に取り入れて使いやすい Web 会議サービスを提

供したい。」(アルカディン・ジャパン 代表取締役 田中 羊二氏)



Web 共有画面

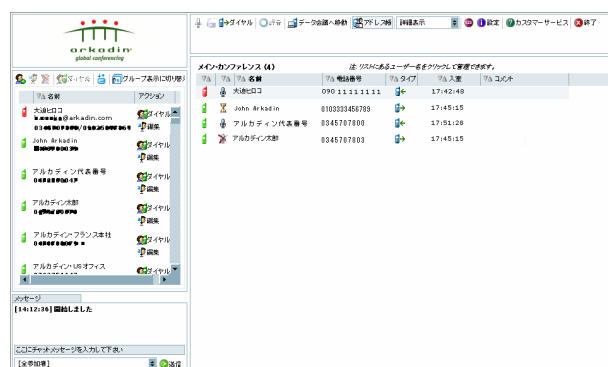
Arkadin Anywhere は、機能的には、「Web 会議共有画面」、「電話会議用モニター画面」、「利用設定画面」、の3つの操作画面を持つ。アルカディン・ジャパンのホームページにあるログインページからログインを行いいずれかのページに行く。それぞれ3つの画面には、他の画面へ移動するためのボタンがあり、そこから簡単にワンクリックで移動できる。

「従来の同様なシステムでは、専用のソフトウェアのダウンロードや事前の環境設定が必要だったが、Anywhereはその名のとおり、ブラウザがあればクライアント PC 側(Web 会議参加者)ではログインするだけで簡単に使える Web 会議システムだ。システムはクライアント PC に負担にならないように軽く設計開発されている。また、100人で Web 会議を同時に利用しようとする回線帯域に余裕がなくなり、半数以上は接続環境の問題で Web 会議のセッションに参加出来ない人がでるといいうケースも一般的な例として聞いたことがあったが、当社の Anywhere では、あまり余裕のない帯域でも十分実用的に対応できる。」(同 田中氏)

Web 会議あるいは電話会議は、利用設定画面で会議主催者が、参加者に対してメールにて招待することで開催できる。Web 会議については、そのメールを受領した参加者は、メール本文に表示される URL リンクをクリックすることでその会議に参加でき、電話会議であれば、本文に会議に参加するための電話番号や ID 番号などを表示することで招待が行

える。ただ、Web 会議であっても音声の部分は、電話会議を使うことになる。

Web 会議を行う場合は、まず Web 会議室に参加者が入り、その後電話会議用の電話番号へダイヤルして、会議室用の PIN 番号を、プッシュボタンで入力しその会議室に入ることになるが、もし、その参加者がなんらかの原因で会議室に入れない問題が発生した場合は、即座に同社のカスタマーサポートに自動接続し対応してもらえるサービスを提供している。



電話会議用モニター画面

「Web 会議や電話会議の参加方法などに不慣れな人でも、必要な時に即座に当社のカスタマーサポートがきめ細かな対応ができる体制をグローバルに構築している。たとえば、Web 会議室へログイン時に ID と PIN 番号が間違っていたり、失念したりして、入れない状況の時などは、カスタマーサポートで即座に察知してそのお客様に対してチャット機能を用いて対応ができるため、ユーザのお客様には安心できる親切なサービスとして良い評価を頂いている。また、そのお客様が日本語であれば日本語の担当が、外国語であればそれぞれの外国語で対応が可能。慣れない人も簡単に 100%会議室に入れるのが我々のサービスのモットーだ。」(同 田中氏)

会議サービスは、50名までの会議では事前予約は不要でいつでも24時間必要な時に開催ができるが、51名を越える場合は、前もってカスタマーサポートへ予約することでアルカディン・ジャパンでは対応している。

Web 会議では、Web 会議共有画面を使って、ホワイトボード共有と Microsoft PowerPoint などのファイル共有やテキストチャットなどが行える。ファイルは、アルカディン・ジャパンの共有サーバーにアップロードして各参加者へ JPEG ファイルに変換してファイルを保存しておくことも可能。

そして、必要に応じてそのファイルを選択することで参加者との間でファイルを共有できる。また参加者に権限が与えられれば、その参加者は、ローカルの PC からファイルをアップロードして全参加者へ共有させることも可能。ただ、ファイルのアップロードにネットワークの状況に応じて時間がかかる場合があるため、事前にアップロードしておくことがよい。

共有されたファイルは、たとえば、Microsoft PowerPoint であれば、画面右側のフレーム枠内にその共有されたスライドが表示され、そして、その画面左側のボックス(共有されたファイルの一覧が表示)に1スライド毎の名前が表示される。そのスライドの名前をクリックするだけで、簡単にスライド間を移動することが可能。名称はテキストだけではなく、縮小版でも表示ができ、スライドを開く前に内容が確認できる。また、共有されたファイルは、参加者にプリントアウトや保存を許可するかどうかの権限設定も事前に行え、「共有ファイルを参加者に配布できない場合に便利な機能である。」(同 田中氏)

音声部分である電話会議については、サブカンファレンス機能がある。通常1会議室に1つの会議室(メインカンファレンス)だが、そこからリアルタイムに分岐して別の会議室に分かれる(サブカンファレンス)ことも可能。またそのサブの会議室からメインの会議室へ戻ることも可能。加えて、割り込み機能(1対1の通話会議)も提供している。

たとえば、最初主催者と参加者全員がメインの会議室でミーティングを行い、その後参加者が2グループにわかれて個別のミーティングを行い、その間主催者は、割り込み機能で1対1の通話を行う。それが終わると、また全員がメイン会議室にもどり、ミーティングを継続する。誰が、サブ会議室に移動するかの操作は、電話会議用モニター画面で移動するだけでリアルタイムに簡単に行える。

電話会議用モニター画面では、会議開催中の参加者の一覧が表示され、現在の接続状況からミュートや発言しているかなどの状況がアイコンなどでわかりやすく表示される機能がある。また利用設定画面では、参加者(アカウント)情報、コンテンツバンク(Web 会議共有ファイルの一覧画面)、会議の利用統計、会議参加者の招待、などの機能を提供している。会議招待画面では、参加者のメールアドレスの入力ボックスやテンプレートテキスト(標準テキスト文章)が入っており、必要に応じて、本文の書き換えなどを行い、参加者へメール配信が出来る機能となっている。その際に、会議の日時、方法を伝えるだけでなく、ちょっとしたメモも添えてメールを送ることができるということ。

「Arkadin Anywhere の特長は、シンプルな画面でメニュー等は簡単に操作できるような配置デザインをしており、初めて Web 会議を使う人を焦点に当てて開発している。言語も日本語、英語、フランス語、ドイツ語など約 10 カ国語に、またレイアウト変更や会社ロゴを入れるなどのカスタマイズも柔軟に対応している。今年の秋を目途に、次のバージョンをリリース予定で、そのバージョンでは、アプリケーション共有に対応し、来年の春頃には、ウェブカメラによるビデオ映像にも対応したいと考えている。ユーザがどのようなものを求めているかを常に考えてお客様が満足していただけるサービスを心がけていきたい。」(同 田中氏)

日本タンバーク、関西西日本向けにより充実したコンサルティング、サービスを展開するため大阪事務所開設、また代理店戦略強化を発表

日本タンバーク株式会社(東京都港区)は、6月27日に同社の大阪事務所(大阪市福島区)開設を発表した。

従来の関東中心型の販売展開から、同社としての出荷額の伸びが高い関西地区へもビデオ会議の販売を強化する考え。

「大阪への事務所開設は外資系としては、当社がいち

はやい対応をしたことになるが、お客様からの強いご要望があり、当社日本タンバークの関西企業への出荷額は、日本タンバークの全出荷額の3割に迫る勢いのため、より充実したコンサルティングやサービスを関西、西日本のお客様にも提供する目的から今回開設することにした。」(日本タンバーク)

また、代理店戦略を強化することも合わせて発表。施策としては、(1)既存代理店の大阪拠点の支援、(2)日本タンバーク主体の各種セミナー、トレーニングの開催及び強化、(3)新規代理店の開拓。などからなる。

「関西地区、西日本市場においても、製造業を中心にビデオ会議システムの普及活動を積極的に行っていきたい。」(日本タンバーク)と今後の西日本での展開に強い期待を見せる。

WebEx ジャパン、富士キメラ総研調査資料で日本国内Web会議市場で、シェア1位を獲得、ASP型Web会議市場の拡大

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社(東京都港区)によると、株式会社富士キメラ総研が発表した「2007年IPコミュニケーション/モバイル市場調査総覧」レポート中のWeb会議ASPサービス市場カテゴリにおいて、2006年度の日本国内における市場シェア1位を獲得したと発表した。

本調査資料によると、WebExの2006年度における数量(導入社数)ベースの市場シェアは、28.7%。4分の1以上のシェアを占めて市場1位となった。また、金額ベースによる市場シェアは、33.0%で、2005年に引き続き2年連続1位を記録した。

国内シェアを伸ばした理由として、2006年に買収統合したイントラネット社(中小企業向けASP型グループウェア)による顧客層の拡大とともに、WebExの海外でのブランド力が国内においても生かされたと、同社では見ている。

また、同調査資料によると、SI型のWeb会議が従来主流だったが、ASP型は低コストながらセキュリティや安定性が改善されてきたことが背景になり、ASP型市場は急拡大しているという。

【海外 news】米 Compunetix 社、中国上海に部品供給センタを設置、ワールドワイドに供給センタの分散設置を進める

音声会議、テレビ会議多地点接続装置等の米メーカー Compunetix 社(コンピュネティクス)は、中国上海に装置用の部品等供給のためのセンタを開設した。

同社では、ロジステックサービスを提供する Expeditors 社と提携し、供給体制の分散化を行っている。ロンドン、シンガポールと続き上海は3カ所目になる。



顧客への部品やアップグレードの手配時間の短縮化、運送や管理コストの削減などを行うことで、顧客サービスの向上を図る。

Compunetix 社フラ

ッグシップシステム

Contex Summit (サミット)

世界 26 カ国、40 万ポート分の多地点接続装置を設置している実績がある。(関連記事:CNA レポート・ジャパン Vol.8 No.29 2006年11月10日号)

【海外 news】ラドビジョン社、PC向けビデオ会議ソリューションを発表

イスラエルの RADVISION 社は、6月にアメリカで開催された InfoComm 07 で、同社の SCOPIA(スコープピア) Desktop ビデオ会議ソリューションを発表。

同ソリューションは、SCOPIA 統合コミュニケーションプラットフォームから拡張した機能として提供され、PCからのビデオ会議を可能とするもの。SCOPIA 統合プラットフォームは、多地点接続機能やゲートウェー、ゲートキーパーなどのインフラ機能を提供する同社のソリューション。

SCOPIA Desktop ビデオ会議ソリューションは、ブラウザプラグインのため特別なソフトウェアは必要とせず、ファイヤーウォールにも対応している。専用端末のビデオ会議システムがサポートしている H.239(デュアルビデオ、映像とデータ共有表示の標準プロトコル)にも対応している。

同社によると、会議室のシステムを、リモート環境のデスクトップPCユーザにも提供できないかという要望を受けていた。今回そのニーズに対応するものとなる。

【海外 news】米 WebDialogs 社、Web 会議システムの最新バージョンと、Skype などと組み合わせて使う簡易データ共有ソフトウェアの新版をリリース

米 WebDialogs 社(ウェブダイアログス)が、同社の Web 会議システム「Unyte Meeting Version 8.0(ユナイトミーティングバージョン 8.0)」を 6 月 27 日に発表。

Unyte Meeting は、特別なソフトウェアを必要とせずブラウザのみで動作するシステム。

今回のバージョンでは、従来の音声とデータのみ Web 会議機能に、映像も加え、発言者が Web カメラを準備すれば参加者へ映像を配信できるようになった。

また、ユーザーインターフェイスの刷新、より効率的な帯域管理などが可能になった。録音機能も装備。

Unyte Meeting と Unyte Meeting Pro の 2 種類を提供。大手多地点サービス提供事業者などが OEM 供給などを受けて自社ブランドで提供している。

Skype などと組み合わせて使う簡易データ共有ソフトウェアの新版 Unyte 2.5(ユナイト)は、Skype、Yahoo! Messenger、Salesforce.com などに対応し、Skype であればプラグインとしてインストールして使用。共有時には、SSL のセキュリティを使用。無料版の「Unyte」と有料版「Unyte+」があり、無料版では、1対1のデータ表示共有のみだが、有料版は、共有資料への描き込み、ポインタ、スケジュール機能、リモートコントロール、アプリケーション&デスクトップ共有、共有ファイルの選択(選択されていないファイルは画面には表示されない)などを提供する。共有はブラウザあるいは Unyte の画面の 2 種類を選択できる。

基本的な使用方法は、まず Unyte ソフトウェアをダウンロードし、起動させる。そうするとログイン画面が出てくるためログインすることで、次に共有するファイルを選択する画面でファイルを選択。そして、参加者へのメール招待等を行うことで共有が開始する。

有料版(北米価格)は、2 ユーザ(30USD/年)、5 ユーザ(35USD/3 ヶ月)、10 ユーザ(300USD/3 ヶ月)、25 ユーザ

(450USD/3 ヶ月)。5 ユーザ以上は、年間固定料金もある。その場合、5 ユーザ(100USD/年)、10 ユーザ(300USD/年)、25 ユーザ(450USD/年)となる。ユーザ数にはホスト(会議主催者)も含まれる。

セミナー・展示会情報

CIAJ えくすぱーと・のれっじ・セミナー
ネット・コラボレーション組織 ~映像コミュニケーションによる革新

日時:7月20日(金)10:00-11:30

場所:CIAJ B~E 会議室(港区浜松町)

講師:児玉 充 氏

(日本大学 商学部・大学院商学研究科 教授)

主催:CIAJ【情報通信ネットワーク産業協会】

詳細・申込:

<https://cp11.smp.ne.jp/ciaj/seminar?act=Regform&seminarId=070720-1>

Web 会議はオフィスで本当に役に立つ!? 賢い企業はこう使う!!

日時:8月2日(木)15:00-17:00

場所:キヤノンソフト情報システム 東京支社

主催:キヤノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:

<http://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=966>

企業における Web 会議システムの可能性と実際 ~ 導入を検討すべきかどうかの "考えるヒント" とは ~

日時:8月7日(火)14:00~15:00

会場:インターネット上の会場(オンライン)

主催:ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_0807.html?SourceId=cna

編集後記

CNAレポート・ジャパンへ、日々ご協力、ご支援誠に有り難うございます。今号もご覧頂きまして有り難うございました。

8月7日にウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン主催のオンラインによるセミナーにて、「Web 会議の可能性と実際」と題して講演させて頂くことになりました。宜しければご参加いただければ幸いです。

この定期レポートの夏期の発行スケジュールですが、7月31日号の発行後、8月15日号と8月31日号は、お休みをさせていただきますが営業はお盆以外では通常通りです。次号(7月31日号)も宜しくお願い致します。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本啓介